

本ばこ

—新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている则便利な図書・資料」などを取り上げます。

※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

ルールを発見して場面に合った使い方を身に付ける

『日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—』

●データ●
 1 庵功雄、清水佳子 2 スリーエーネット
 ワーク(〒101-0064 東京都千代田区猿樂
 町2-6-3(松栄ビル) / TEL. 03-3292-5751
 FAX.03-3292-6195 URL.www.3anet.co.jp
 3 2003年2月20日 4 4-88319-242-3 5 B5
 判72ページ 6 1,365円 7 別冊解答付き

たや練習の提示の方法などの点で参考になります。

▽設問に答えながらルールを 考える

構成は、1章「～する、～した、～してしまう」、2章「～している、～し続ける、～してある、～しつつある、～したことがある」、3章「時間を表すその他の表現」となっていて、各章は、「ウォームアップ」→「本文」→「総合練習」という流れで進みます。

「ウォームアップ」では、学習者は簡単な質問に答えることによって、これまでの理解を確認することができます。

「本文」には「問」「まとめ」「練習」が含まれます。「問」は、設問に答えながら、自分でルールを導き出せるようになっていて、続く「まとめ」でルールを整理しています。「まとめ」の部分は網掛けになっていますから、あとでもう一度要点を見たいときに探しやすいです。そのあとに理解の確認のための「練習」が

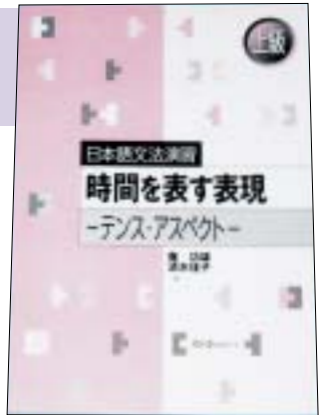
あります。

「総合練習」には、「本文」で学習した文法知識を使って日本人向けに書かれた生の文章を読む練習があります。

テンス・アスペクトについてのまとまった説明は「ちょっと一息」というコーナーにあります。「ちょっと一息」は全部で5つあります。

巻末にはテンスとアスペクトについての総合的な練習として「総合演習」があります。使われている文章はすべて生の文章です。

この本を終わりまで読むと、段階に合った練習を積み重ねることができ、テンス・アスペクトについて自分なりのルールと勘を身に付けることができるでしょう。



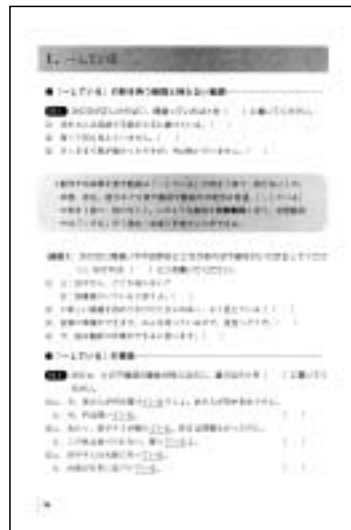
▽上級レベルの学習者のために

文の基本構造にかかわる文法項目は、普通、初級段階で一通り学習しますが、基本的で重要なだけに実は奥が深く、初級の間に完全に使えるようになるのは難しいと思っている人は多いのではないのでしょうか。本書のテーマである「～する、～した、～している」の形に代表されるテンス・アスペクトもこのような文法項目のひとつです。

本書は、上級の学習者が体系的に知識を得られるのと同時に、上級レベルの豊かな表現が使えるようになるよう工夫されています。また、上級の学習者を指導する教師にも、説明のしか



P. 25



P. 26



P. 27



P. 21

必要な情報を盛り込むコツが学べる一冊

『日本語を書くトレーニング』

データ

1野田尚史、森口稔 **2**ひつじ書房 (〒112-0002 東京都文京区小石川5-21-5 TEL.03-5684-6871 FAX.03-5684-6872 URL www.hituzi.co.jp **3**2003年3月20日 **4**4-89476-177-7 **5**A5判128ページ **6**1,050円

「日本語を書く」ときに、どんな情報をどんな順序で書けばよいか、悩みます。本書では具体的な目的のある文章を書くための書き方が学べます。本書は日本の大学や短大の「日本語表現法」、「文章構成法」などの授業で学ぶ日本人を対象として書かれたものです。しかし、いろいろな内容があり、必要な情報を盛り込むコツが学べるように作成されているので、海外で日本語を学ぶ中上級レベルの人にも使えろと思えます。ゆっくり授業をすれば、1年間のテキストになりますし、興味にあわせてテーマを選んで使うと半年間のテキストにもなります。

内容はトレーニング1から15まであり、「携帯メール」「看板」「広告」「企画書」「アンケート

ト用紙」「レポート」「就職のためのエントリーシート」などがあります。例えば、トレーニング1の「お知らせのメール」では、

- ・同窓会
 - ・サークルの新生歓迎会
 - ・ゼミのコンパ
 - ・先生に授業の長期欠席の連絡
- などの文章例があります。

それぞれの内容が1ページで構成され、日常的で実用的な文章例の悪い点を見つけ、それを書き直すように作成されています。書くトレーニングですから、読むだけでなく、文章例についての「問題」や各トレーニングの最後にある課題をやっていくことで力がつきます。ただ、その問題・課題の答えはついていません。

使い方については、学生を2～5人ぐらいのグループにわけて、それぞれ1ページ分の問題を考えてもらい、その結果をみんなの前で発表するという形が紹介されています。



P. 24



P. 25

優れた実践からこれからの教育を考える

『実践に学ぶ情報教育—これからの学習を変える』

データ

1赤堀侃司 **2**ジャストシステム出版部 (〒107-8640 東京都港区北青山1-2-3青山ビルディング TEL.03-5412-3900 FAX.03-5412-3910 URL www.justsystem.co.jp **3**2002年11月25日 **4**4-88309-237-2 **5**A5変形判256ページ **6**1,680円

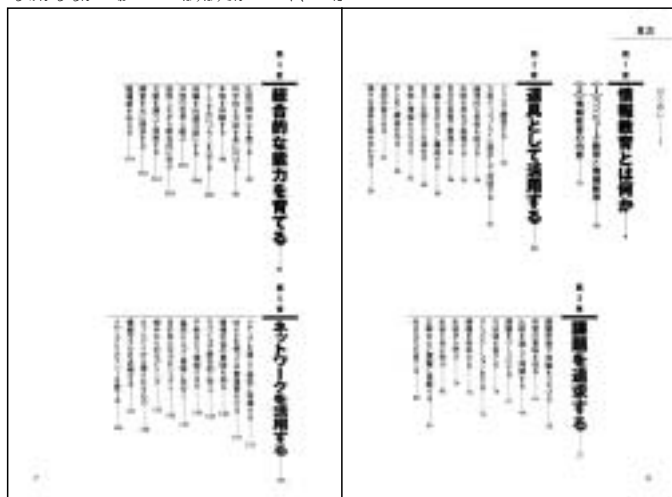
日本語教育においてもコンピュータやインターネットの利用は、身近な話題の一つとなっていますが、「教師が日々の教育実践の場にコンピュータやインターネットを積極的に取り入れているか」と考えてみると、必ずしもそうではないようです。それは、単に面倒だからというだけでなく、教師一人一人がその意義をなかなか見出せないでいるからではないでしょうか。

本書では、著者自らが見学し心に響いた、学校教育現場での53の情報教育の実践事例が紹介されています。これらの事例から、日本語教育現場におけるコンピュータやインターネットの利用の意義について考えるためのヒントが得られるでしょう。

全体は8章から構成されていますが、具体的な実践事例の紹介は、2章から6章の5つの章に散りばめられています。例えば、「第2章 道具として活用する」では「自分の言葉で表現する」というタイトルで、アメリカの小学校の自分史という題材の授業で、自分史についてワープロソフトで文章作成をするという事例を紹介しています。この授業で、なぜワープロソフトを使うのでしょうか。自分史を書く作業は、自分を取り巻く社会的な状況や、自分自身の生い立ちを調べ、その意味を探り、それを文章にして表現する過程と考えられています。いろいろな事実を知り、文章にしようすると、何回も修正したり、内容を追加したりしなければなりません。ワープロソフトは、単に便利だけでなく、修正しながら表現できる道具、失敗を許してくれる道具なのです。このような道具を使って、自分の言葉で表現する点で意味があるの

です。このような実践の背後にある深い意味を読み取りながら、日本語教育の現場でも、これからの実践を考えたいものです。

理論的な背景について学びたい場合は、本書の姉妹編「教育学への招待—教育の問題解決の方法論」が役に立つでしょう。



P. 7

P. 6

聴いて、歌って学ぶ日本語・日本事情
き うた まな にほんご にほんじじょう

『Learning Language Through Lyrics (vol.1:Classical Japanese Pop Songs)歌って上達 日本語会話』
うた じやうたつ にほんご かいわ

データ

1 M.J. アイナン、金子栄美 2 凡人社
かねこまみ ほんじんしゃ
(〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-
13 菱進平河町ビル1F TEL.03-3263-3959
りやうしんひらかわちやう
FAX.03-3263-3116 URL www.bonjinsha.
com/index-j.html E-mail info@bonjinsha.
com 3 2002年12月26日 4 4-89358-529-0
ねん がつ にち 4 4-89358-529-0
5 A5判136ページ 6 1,365円
ほん ページ えん

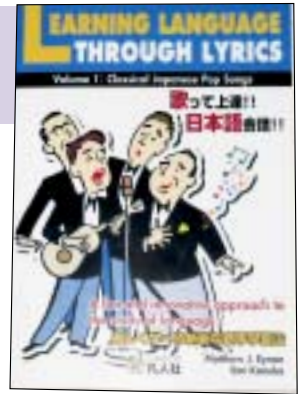
本書は、1970～80年代に活躍し、今日でも有名な8組のアーティストの曲を集めた、歌で学ぶ日本語教材です。20～30年前の曲なのでClassical Japanese Pop Songsという英語の副題が付いていますが決して古くはありません。今でも誰もが知っている名曲ばかりですので、ぜひ覚えて世界の共通語になった「カラオケ」で歌ってみてください。恋愛を歌った歌詞が多いので、中級レベル以上の大学生や社会人の学習者に特におすすめです。

収録されている曲は全部で16曲あります。各章は、まずアーティストのプロフィールや今までの作品の簡単な紹介で始まります。続いて、

歌詞→その歌詞のローマ字書き→英語訳→単語の意味→文法解説の順番で2曲が紹介されています。

教室での利用法としては次のような使い方が考えられます。まず、一度歌詞を見ないで曲を聴き、理解した内容や印象について話し合います。次に、歌詞を見て、誰が誰にどんな気持ちで歌っているのか考えながら内容を話し合います。わからない部分があったら単語の意味や文法解説のページを利用してください。また、言葉の省略や背景となる日本文化についても教師はここで確認、紹介します。歌詞の英語訳もありますが、最初は自力で考えるようにします。だいたい内容がわかったら、もう一度歌を聴きます。最後に皆で歌ってみるといいでしょう。

残念ながら本書にCDはついていませんが、これらの曲は日本国内ではもちろん、インターネットを使えば世界のどこにいても安く手に入れることができます。各所にURLの紹介がありますのでそれを参考にしてください。



P. 91

日本語で表現することを学べる辞書

『日本語学習 基礎英日辞典』
にほんご がくじゅう きそえい にち じてん

データ

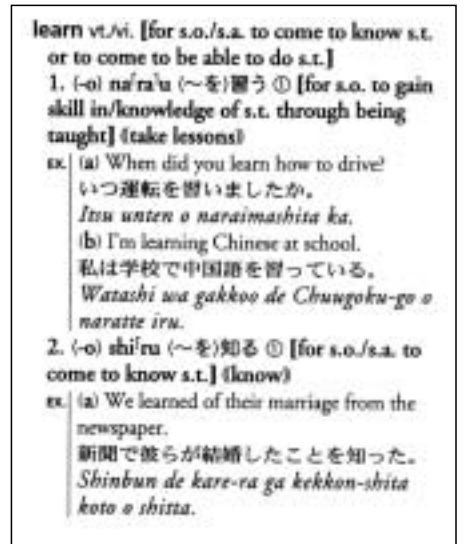
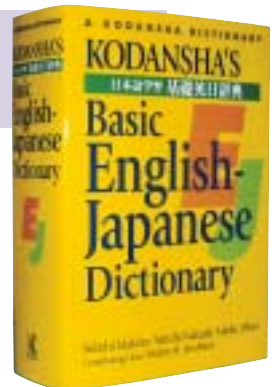
1 牧野成一、中田清一、大曾美恵子編 2
まきのせいいち なかだせいいち おおそえみこへん
講談社インターナショナル (〒112-8652
とうきょうとう 文京区音羽1-17-14 TEL.03-3944-
6493 FAX.03-3944-6394 URL www.kodan
sha-intl.co.jp 3 2002年11月8日 4 4-7700-
2895-4 5 A5変形判・1,508ページ 6 4,725
円 7 見出し語4,500語以上
えん みだ ご ごいじゆ

本書は、母語や第二言語で英語がわかる日本語学習者、研究者が日本語で話したり、書いたりするときのための辞書です。日常生活でよく使う4,500語の基本的な英語のことは対応する日本語を例文とともに探すことができます。英語のことは対応する日本語は、ときにはとてもたくさんあります。この辞書では、英語、日本語のことはそれぞれに基本的な意味が書かれています。例えばlearnということばでは、[for someone / some animal to come to know something or to come to be able to do something]とあります。このことばに対応する日本語としては、「習う」「知る」「覚える」と

いう違うことばが三つ挙げられていて、それぞれに基本的な意味の解説があります。このような基本的意味のうち、どのような意味が日本語のことは共通しているか考えることができます。英語と日本語の意味の違いを分析的に理解できるようになっています。

日本語のことはや例文は、ひらがな、カタカナ、漢字だけでなく、ローマ字でも書かれていますので、日本語の表記に慣れていない学習者でも使えます。ローマ字には高低アクセントの記号がついています。動詞、形容詞には、活用に関する情報もあります。

巻末付録には、日本語のことはから英語のことばを探すための表があります。この部分を使って、日英辞書としても利用できます。また、基本的な日本語の文法説明や、ビジネス、医療などのことばリスト、日本の家の図など、様々な情報が紹介されています。このような部分は、辞書としてだけでなく、日本語の教材としても利用できるでしょう。



P. 525

P.15～17は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。
木山登茂子、雄谷進、島田徳子、押尾和美、古川嘉子(執筆順)
きやまと も こ おおやすすけ しまたのりこ おしおかずみ ふるかわよしこ しつづしん